関西外国語大学英語国際学部の光信仁美と申します。よろしくお願いします。
日本語の文字、漢字を含む文字というのは文字の種類とか、用法、使い方ですね。それから表記法。書き方ですね。ともにですね、世界でも類をみない多様で複雑なシステムをもっています。

例えば、文字の種類についていえば、表意文字である「漢字」ですよね。それから、その漢字から作られた音だけを表す表音文字。音の集まりを表す表音文字の中の音節文字ですね。「ひらがな」「カタカナ」というのを持っています。さらに、音節文字よりもさらに小さな音の単位である単音文字のローマ字も使用するという、すべての種類の文字を**併用**しているという、世界でも極めて稀な文字システム、文字体系を持っている言語だというふうにいわれています。その中の、本日は漢字ですよね。特に漢字の読みについてお話をしたいと思います。
ご承知のとおり、漢字の読みには大きく分けて「音読み」「訓読み」があるということなんですけれども、そのうちのまず、音読みからお話をしたいと思います。

音読みというのは、中国語の発音を受け継いだ読み方なんですけれども、まったく中国語のままを日本語で発音しているかっていうと、そうではなくって、その中国語の発音を日本語の中の音の体系にあわせて、だから日本の中にある音に近い音で読んだ読み方ということになります。

ただ厄介なことに、この音読みが一種類ではないということですよね。それでもって私たちは学校教育の場で、漢字の習得に悩まされてきたわけですけれども。

例えば、学校に行く、っていう漢字ですね。行くという感じ。この音読みには、行列とか行事。学校行事の行事。「ギョウ」と発音する音読みと、それから銀行の「コウ」。入場行進の「コウ」ですね。「コウ」という音読み。それから、これは非常にまれな、まれに聞く読み方ですけれども、行灯の「アン」。行灯というのは江戸時代の明かりで、中に火を入れて周りを白い障子紙のようなもので覆ったランプよりも前の時代の明かりのことですけれど、 行灯の「アン」ですね。行くという漢字を書いて「アン」と読みます。それから行脚。地方行脚の「アン」。行脚の「ギャ」は月偏の脚という漢字を書くんですけれども、地方を回る、巡るっていう意味の単語の漢字なんですが、この行くという漢字を「アン」と読むということがあります。つまり、行くという漢字の音読みには、「ギョウ」と読む場合と、「コウ」と読む場合と「アン」と読む場合の3つの音読みがあるわけなんですね。

じゃあ、その3つの読み方っていうのは、どうしてそんなふうに、現代の私たちが漢字を学ぶときに苦労するようになってきているのかということなんですが、それはその漢字の音を取り入れた時代が違うということになるんですね。まず一番古い時代に入ってき

た音読み、漢字音というのは、奈良時代以前に入ってきた漢字の音なんですね。だいたい奈良時代以前っていうのは、7世紀以前ということなんですけれども。その頃の中国の南方地方。揚子江下流一帯の漢字音がその頃入ってきた訳なんですけれども、その頃の音のことを呉音といっています。現代に残っている呉音は、今の行くという漢字でいうと、「ギョウ」と発音する音読みなんですね。

　その他ですね、現代でよく使われている呉音読みの単語っていうのを拾い上げてみると、まず、2つの分野で使われている単語が多いということがわかるんです。